

【体育(保健領域)・小学校】

指 導

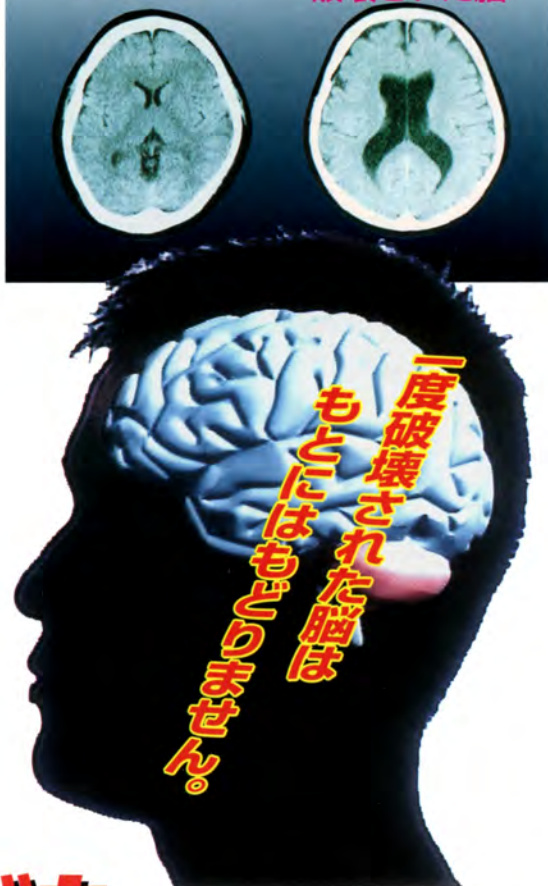
樋口 進 国立久里浜病院臨床研究部長
木村 俊彦 川崎市立中野島小学校教諭
福嶋 すみ子 浦和市立大牧小学校養護教諭

近年の社会環境の変化に伴い小学生においても飲酒の危険性は高まってきています。未成年の飲酒は、健康問題だけでなく、薬物乱用の入り口とも言われています。新学習指導要領では小学校の段階から喫煙、薬物乱用と並んで飲酒についても取り扱うこととされました。

この作品は、飲酒による健康への影響をわかりやすく解説し、その有害性・危険性をアピールすることにより、子どもたちが「お酒は飲まない」また「勧められても絶対に断る」強い意志決定が出来るようになるための教材映像です。

正常な脳

アルコールで破壊された脳

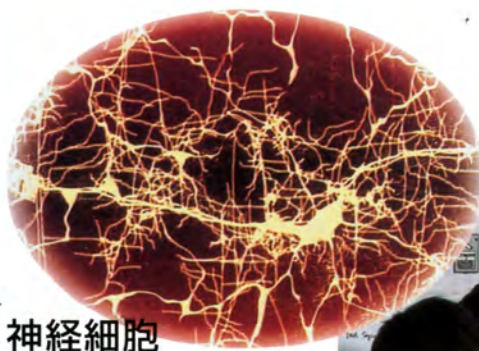


文部科学省選定

お酒は子どもに なぜ悪いの？

優秀映画鑑賞会推薦

【上映時間20分】



製作 / 八頭司 享

出演 / 野崎かづみ
高橋竜人
橋谷健大
桜井琴江
福田砂也

監督 / 原田 隆司



ビデオ/DVD (フィルムライブラリー¥56,700) (図書館・学校¥21,000) 税込

制作協力 財団法人 日本視聴覚教育協会 / 株式会社 IMAGICA

制作 共和教育映画社

お酒は子どもになぜ悪いの？

【体育(保健領域)・小学校 上映時間20分】

内 容

「おとなはお酒を飲んでもよいのに、子どもはどうしてダメなんだろう」、そんな疑問を持った小学校5年生の浩二、晃、めぐみ、明子の4人は、グループ学習のテーマにしようと考えます。

養護教諭の吉田(野崎かづみ)とともに国立久里浜病院を訪ねた4人は、医師の話や実験からお酒が体に及ぼす影響について学んでいきます。

視 点

【急性影響】

- アルコールは体に吸収されると血液中に入り、脳に運ばれます。脳はアルコールによって麻痺します。少量のアルコールでも、物事を正しく考える力が鈍って、陽気になったり大胆な行動をとったりするようになります。
- 血液中のアルコール濃度が高くなると、脳の麻痺は進んで、平衡感覚に影響を与えたり運動能力が落ちてきたりします。そのことを、平均台歩行や片足立ちなどを飲酒前と飲酒後に行った比較により示します。
- さらに血液中のアルコール濃度が高くなると、脳全体が麻痺し、意識障害を起こして死亡することもあります。→急性アルコール中毒
- アルコールの分解は肝臓で行われますが、分解のスピードは個人によって違いがあります。子どもは特に分解能力が弱いのです。

〈パッチテスト〉アルコールをしみ込ませたパッチを腕に貼り、その反応でその人のアルコールの分解が早いか遅いかを調べます。パッチをはがした跡が赤く出る人はアルコールの分解が遅く、「お酒に弱い」こととなります。しかし、赤くならない人はお酒を飲んでもだいじょうぶ、と思っはけません。

【慢性影響】

- 飲酒を繰り返すと、アルコールに対する耐性ができて飲酒量がだんだん増えていきます。一度耐性ができると容易にもとに戻らなくなり、飲酒をやめられなくなります。→アルコール依存症
- 多量の飲酒が続くといろいろな臓器に影響が及びます。特に脳では、アルコールにより神経細胞が破壊されて萎縮し、痴呆が早期に発生する場合があります。一度破壊された神経細胞はもとはに戻りません。正常な脳とアルコールで破壊された脳をCTスキャンのフィルムで比較します。
- 妊娠中の女性の場合、胎児にも悪影響が及ぶ場合があります、障害を持った赤ちゃんが生まれることがあります。

まとめ

飲酒は健康にいろいろな悪影響を及ぼします。その有害性は子どもにとっては特に大きく、未成年の飲酒を禁じている法律は、子どもを守ってくれています。また、生涯を通じて健康な生活を送るためにも、『問題となる飲酒』をしない態度など、賢明な行動選択の能力を培い「生きる力」をはぐくむことが重要です。